

学 園 だ よ り

太 白 山

(令和5年 3・4合併号)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立2丁目4-1

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<https://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

「一致団結した学園祭」

学園祭担当 佐藤 光平

今年度より新型コロナウイルスも五類に引き下げられ、学園祭も従来と同程度の規模で開催することができました。

メインの発表はこれまでと変わらず「意見発表会」と「和太鼓演奏」でした。意見発表会では、入所児童が発表を行いました。内容も学園生活で頑張っていること、担当の先生について、自分の課題、将来の夢についてなど様々でした。自分自身で内容を考えて、寮の先生から添削をしてもらい、丁寧な字で一生涯懸命書き上げました。

和太鼓演奏では、分教室の授業内で練習を重ね、直前まではミスもありましたが、本番当日では、児童・教職員全員が一致団結し演奏を行いました。来場者の皆様の胸に太鼓の音が響いていたと思います。

会場内には、作業時間に取り組んできた切り絵、日ごろの学園生活の写真、分教室の授業で作成した作品など、日々の子どもたちの頑張りを来場者の方々に見ていただきました。

短い期間ではありましたが、子ども

たちが一生懸命練習に励み、当日は大成りに終わりました。お忙しい中ご来場された皆さまに感謝申し上げます。来年度の学園祭もどうぞお楽しみにしてください！

「さわらび学園で頑張っていること」

児童代表 Y・S

ぼくがさわらび学園でがんばっていることは二つあります。一つ目は野球です。

野球では、守備や打撃の練習や声かけの練習をしています。守備では、ファーストやレフトを守っています。レフトの場合ではフライのキャッチの練習やサードやショートがこぼした球を取って、ショートに投げたりする練習をしています。ファーストでは、ワンアウトを確実に取る守備なので、ショートの練習をしたりしています。打撃では、バットにま

ずはボールを当てるということを意識していきたいと思いましたが、バットをふるときには、空ぶってもいいから思いっきりふるということを意識していきたいです。声かけについては、コーチの時や、ピッチャーやキャッチャーに対しての応援などで意識していきます。自分では、

声かけはあいさつに繋がると思いました。「おはようございます。」や「こんにちは。」といった言葉に使えるので、これからの生活に活かしていきたいと思います。二つ目は、生活です。自分が生活しているのは、広瀬寮という寮です。にぎやかで楽しい寮です。時にはケンカをしたり、時には、協力したりする寮です。にぎやかすぎてトラブルになることもあります。トラブルにならない方法とか、考えるときもあります。自分から見て、広瀬寮は、とてもいい寮なので、仲良く平和に生活していきたいと思えました。



「個性あふれるクリスマス会」

クリスマス会担当 有我 定哲

十二月十九日、クリスマス会を行いました。当日に向けて各寮出し物の練習をしたり、看板や輪飾りなどを作ったりと、学園全体がクリスマス会の成功に向けて一致団結していました。

午前の部では、体育館にて各寮の出し物を披露しました。広瀬寮と青葉寮は劇を行い、すみれ寮はマジックショーを行いました。当日まで内容は秘密にしていたため、児童らは驚きの表情と共に笑顔を見せていました。また、幕間の時間には有志の児童らが個人発表をし、分教室職員の出し物もあり、より一層会が盛り上がっていました。出し物が無事に終了すると、緊張していたのか安堵の表情を浮かべる児童もいました。

午後の部では、各寮にて会食を行いました。会食中、園長がサンタ、副園長がトナカイの格好をし、児童らにクリスマスプレゼントを配布しました。名前を呼ばれた児童は返事をして嬉しそうに受け取っていました。

児童らが普段とは異なる一面を見せていた一日であったと思います。

「クリスマス感想」

児童代表 N・Y

私のクリスマス感想は二つあります。

一つ目は、初めてクリスマス会に出て、マジックを成功できるのか不安でした。ただどできるだけ、毎日のように練習をしました。だから、成功しました。しかし、緊張はしました。

二つ目は、最初はみんな楽しんで、クリスマス会を盛り上げられるのか心配でした。けれど、みんなと一緒に笑顔で楽しくできました。とても楽しかったです。また、みんなが笑顔で楽しい思い出を作りたいです。

来年も楽しいクリスマスにしましょう。そして、失敗しても笑顔でいられるクリスマスにしましょう。



「餅つき子ども会」

広瀬寮職員 三浦 拓人

十二月二十八日、食堂にて餅つきを行いました。児童と職員で餅つきを行い、粒が目立っていたもち米から、みんなの力で一つの餅を作りました。みんな汗を流しながら重い杵を持ち上げて餅をついていました。

初めは静かに餅つきをしていたのですが、途中から、児童達が主体的に場を盛り上げてくれて、食堂一体に笑い声や楽しい雰囲気広がりました。餅をついている人への掛け声や児童と職員間のコミュニケーションが積極的に行われていました。

その後は各寮で、作った餅から鏡餅を作りました。児童同士で役割分担を決め、餅をこねたり、片栗粉を付けて、形を整えたりしました。複数の児童から、「売ってある状態の鏡餅しか見たことがない」と話があり、児童にも鏡餅を作る工程や、作る文化があることを体感してもらったことが出来たと思います。

今回の行事は、児童が楽しみながら、日本の伝統文化に触れられた経験だったと思います。

「餅つき子ども会の振り返り」

児童代表 K・M

僕は久しぶりに餅つきをしました。久しぶりに餅つきをやったことは、やっぱり餅をつくことはかなりの力が必要でした。

一回杵を振るだけで腕が重くなってしまいとても疲れてしまいます。けど、自分は何とかして強く振りましました。そうやっていくと餅になり、実際に食べてみたらとてもおいしかったです。

次は、寮で鏡餅作りをしました。人生で初めて作る鏡餅はどうやって作るのか気になりました。でも、作ってみて思ったことは、意外と簡単でした。でも、手に餅が付いてねばねばしてしまいました。しかし、一生懸命にみんなで鏡餅を作る事ができました。自分でも達成感がとてもありました。



「仲間と力を合わせて」

新春スポーツ大会担当 永沢 陽

一月二十九日に新春スポーツ大会を開催しました。今大会では、長縄跳びや綱引き、ポッチャ、キンボールを三チームに分かれて行いました。児童は、チーム分けで学園職員や分教室職員の参加に加え、寮の仲間以外の児童とチームになることが伝えられました。そしてチームが発表された際には、新しいチームを喜ぶ児童がいる一方で、「足を引っ張らないだろうか」「あまり話したことない人とチームになってしまった」等の不安や緊張を口にする児童もおりました。今回実施したすべての競技が、事前の打ち合わせや作戦が必要となるものばかりでしたが、どのチームも一丸となって、ベストを尽くしていました。

児童の普段は見られないリーダーシップや優しさを多く見ることできた会となりました。

「新春スポーツ大会の感想」

児童代表 S・H

新春スポーツ大会で楽しかったことはキンボールと綱引きです。キンボールはたくさん走ったりボールを打ったりして、ストレス発散できたのではないかなと思います。自分のチームは仲良く、協力し合えていたと思います。一人がボールを取れなくても誰も責めず、次は頑張ろうという言葉が掛けていたのがあり、良いチームだなと感じました。

綱引きでは、みんなが助け合ったり励まし合ったりしていました。Aチームに負けましたが、Cチームには何とか勝ちました。自分はみんながみんなを支えていてすごいなと思います。その力があつたからこそCチームに勝てたと思います。新春スポーツ大会では、二位という惜しい結果にはなりましたが、良いチームでトラブル一つなく楽しめたので、とても楽しかったです。来年まで学園にいるかは分からないけども、もしいたとしたら頑張りたいです。

「新たなステージへ」

さわらび学園長 亀井 義憲

暖かい日差しが園長室に差し込むようになり、さわらび（芽を出したばかりのワラビ）も地上に顔を出す準備をする季節になりました。

さわらびよりも一足早く学園の小学六年生二人と中学三年生五人は、二月二十二日、無事に卒業式を終え、新たなステージへ進むことになりました。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

小学六年生は四月から中学生です。中学校という新たなステージで、目標を設定し、一歩ずつ前に進んでいけるようにチャレンジしてください。失敗はつきものですので、その時は先生たちや先輩たちが一杯支えますから、安心してくださいね。

中学三年生は、学園から旅立つ生徒と学園に残る生徒、それぞれいると思いますが、新たなステージで、目標を設定し、一歩ずつ前に進んでいけるようにチャレンジすることは同じです。特に学園を旅立つ生徒は、今までのような甘えは通用しないこともあるでしょう。しかし、みなさんは、学園で自らの課題と向き合い、

学園生活をやり遂げたのです。自立する力を身に付けてきたのです。自信を持って未来へ進んでください。

「自立」とは不安や心配が胸の中に渦巻き、自分の足で「人生という道」を歩いていくことが辛くなったときなどに、信頼できる大人に相談したり、頼ったりしながら、再び自らの足で一歩を踏み出し、社会の中で適応しながら生きていくことだと思います。また、自分を大切に、他者も尊重する（相互存在）という姿勢も必要ですので忘れないでくださいね。

皆さんは「ひとり」ではありません。学園生活で気づいたと思います。私たちがついていきます。どうぞこれからも私たちに遠慮なく頼ったり相談したりしてください。ずっと応援しています。

卒業生以外の生徒の皆さん。私はみなさんに希望を持っています。なぜなら、皆さんはその気になれば凄い成長をするからです。私は皆さんが成長するたびにいつも勇気と元気をもらっています。ありがとう。

卒業生が抜けた後は、君たちが中心となり、再び笑顔のある楽しい学園を一緒に作っていきましょうね。

「幸せのつかみかた」

人來田分教室教頭 阿部 博朗

卒業生の皆さん、保護者の皆様、御卒業おめでとうございます。そして、学園を旅立つ皆さん、退園おめでとうございます。春は別れと出会いの季節です。別れのない出会いはなく、出会うことは別れの始まりとも言われます。別れにあたり、卒業・退園する皆さんに、私が日頃大切に考えていることを伝えます。

私が生まれた頃は今と同じで、外国で戦争が起こっていました。その影響でオイルショックというできごとが発生し、日本国内が大混乱に陥りました。そこから日本・世界は大きく変化していきました。今後も同様に世の中は急速に変化していくことでしょう。しかし、生きていくうえで大切なことは変わらないと思います。いつもお話ししてきましたが、どんなに世の中が変化したとしても、皆さんには幸せな人生を歩んでほしいと思っています。別の考え方で言えば、自分で幸せをつかむ生き方をしてほしいと思っています。

「しあわせはいつもじぶんのこころがきめる」

これは、詩人で書道家の相田みつを

さんの言葉です。幸せは与えられるものと考えがちですが、実は自分のそばにたくさんあります。そばにある幸せに気付くことができるか、見つけようとしているか、そのセンスを磨いていくことこそ幸せになる近道だと思います。学園で生活した皆さんなら、当たり前だと思っていることでも、心の決め方次第で特別なこと、奇跡的なこと、幸せなことに置き換えることができるはず。私たちは今、自分になりものを求め、手に入らないことを嘆いたり、自分は不幸だと思ったりしがちです。でも、冷静になって自分のそばを見渡してみれば、親や寮の先生がいてくれたり、最低限必要な物が準備されていたりと、自分では気付いていないけれども、実はたくさんの人に支えられながら生きています。

自分の誕生日が特別な日だと思うのと同じくらい、仲間や愛する人が生まれてきた日をお祝いしてください。仲間が頑張っているときは、自分のことのように励ましてください。仲間が幸せにいることを、自分の幸せと思える人になってください。自分のそばにあふれている幸せをたくさん見つけられる人になってください。

これから応援しています。

「すみれ・春夏秋冬」

すみれ寮長 菅原 美佐子

春。令和五年度の始まりは、児童一名のみのRちゃん。(R一号としましょう)そして、職員メンバーは昨年度に引き続き、四名の職員に新米寮長の私と新しく寮職員となった小川先生が加わり、新たな「すみれ寮」がスタートしました。

四月には新たにR二号ちゃんが、五月にはR三号ちゃんが仲間入りしました。今年のメンバーは、なぜかRちゃんが多いのでした。そして、人数は少ないながらも、一人で十倍ほど(ちよつと言います)の存在感のある個性豊かな面々。想像のとおり、平和な毎日ばかりではありませんでした。そんな中で迎えた野球大会。女子寮全員参加：とはいきませ

んでしたが、参加したRちゃんらは、頑張りました！初めての大会で、これまでの頑張りを精一杯プレーして、悔し涙を流す結果となりましたが、この経験は決して無駄ではなかったと思います。

夏。今年の夏はすみれ寮的には『アツイ夏』でした。今振り返ると、本当に色々なことがありました。ここではお披露目できない、あんなこと

やこんなこと…。当たり前の生活を当たり前に過ごす難しさ。大人も子どもも色々な意味で踏ん張った夏でした。そして新たにKちゃんが加わりました。

秋。さわらび学園の一番大きな行事「学園祭」が十月に開催されました。学園祭前後には、メンバーの入れ替え。R一号ちゃんが退園し、Yちゃんが仲間入りです。アツイ夏からの引き続きで、なかなか落ち着かない状況が続きましたが、R二号ちゃんも長期帰省がスタートし、三名での生活が再スタートしました。

冬。今年の冬は暖冬でしたが、子どもたちからの希望もあり、社会見学でスキー・スノボを体験しました。初めてスキーを滑るYちゃん、Kちゃん。五年ぶりにスノボをしたR三号ちゃん。チャレンジャー三人は、早く滑りたい一心でリフトに乗りこみました。結果、Yちゃんは夏谷先生におんぶしてもらい颯爽と滑った感じを味わい、Kちゃんは中級コースでリタイアし歩いて下山し初級コースをスイスイ滑り、R三号ちゃんは、さすがスポーツ万能。最後には上級コースを制覇し、怖いもの知らずな一面を見せつけたのでした。そ

して帰りには足湯、ソフトクリームのオプションもついて、それぞれ楽しい時間を過ごして大満足でした。

春夏秋冬。個性あふれる面々と過ごしたこの一年。あつという間に過ぎたな…が率直な感想です。振り返るとやはり、苦しかったことや大変だったことが思い出されますが、そんな中でもふと見せる素直な一面、子どもらしい一面、満面の笑顔。大人と子どもの垣根を越えて、共有できる楽しい時間があつたことも事実です。

こんな思いを、子どもたちも少しでも感じられて、いつか、すみれ寮で過ごしたこの時間が無駄ではなかった、ちょっとは楽しかったかな、と思ってくると良いな…と思つています。



次の春がもう、そこまで来ています。どんな一年が待っているのか。どんな面々と過ごす一年になるのか…すみれ・春夏秋冬第二弾を乞うご期待！

「家族支援担当となつて」

家族支援担当 植村 里子

今年度、家族支援担当なり業務に従事することになりました。学園での業務経験は何年間ありましたが、寮職員として子どもと接することが多かったため、家族支援として子どもや家族と関わることは始めてでした。至らない点も多かったと振り返っています。

家族支援担当として、各寮の子どもたちと関わる機会が平等に作られ、学園全体の子ども一人ひとりの個性や頑張りが感じられることは良かったと思つています。また、今までは寮の、そして担当児童の子どもを取り巻く環境や保護者との関係を重視していましたが、一人ひとりの家族とのエピソードや想いに注目することになり、家族の存在の力をより感じられる機会となりました。

子どもが退園後、引き続き関わることになりましたが、上手く課題と付き合っていける子、入所前と同じような苦しい状況になっている子、さまざまな予後があります。ただ全部が「入所前と一緒に」ではなく、苦しく見える状況の中でも、その子どもなりに現状を打破しようと頑張つて

いる姿は、嬉しく、私自身も励まされることもありました。

退園後の事後指導では、保護者とも関わることになってきますが、保護者も子どもと向き合おうとしている姿、保護者自身も変わろうとしている姿は子どもにとって大きいものだと感じていました。

また、入所してくる子どもの中には、理由があつて家族と中々一緒に暮らせない子ども、保護者がいない子どもも増えてきています。そのような子どもへの行き場所やサポートを各関係機関と連携して整えていく役割もあると思つていますので、今後更に自分の課題として、業務に従事したいと思つています。

これからも、子どもたちや家族がより良い生活が送れるように、微力ですが尽力したいと思つていますので、どうぞよろしく願ひします。

「作業活動について」

作業担当 夏谷 朔

児童自立支援施設の作業活動は多岐に渡ります。作業活動の基本は、畑や花壇の手入れ、環境整備です。悪天候時や冬季には、切り絵や裁縫といった活動もしています。

ほとんどの児童は、作業の経験が乏しいです。初めてだらけの作業では、児童と職員が共に汗を流して、協調性や忍耐力を身につけてほしいと願っています。

畑で収穫した野菜については、調理して皆で食べて達成感を共有しています。ピザ作りを窯の作成から行い、日々の夜食で天ぷらにすることもあります。土づくりから始めて収穫できた作物を、自分たちで調理して食べる経験は嬉しい時間になりました。

例年のことですが、作業という不慣れな時間は、児童は戸惑いつつも一生懸命取り組んでいます。スポーツや遊びが好きな年頃なので、地道な作業には後ろ向きな児童も多いですが、少しでも実りある時間になるように、職員も継続して児童と共に頑張つていきたいと思ひます。

「学習と日課」

学習担当 小池 裕也

さわらび学園の学習係は、大きく分けて三つの役割がある。

一つ目は、学習物の準備である。

学園では持ち物に差をつけられないように、みんな同じ文房具を準備し、管理している。

二つ目は、毎日寮内で行う自習の日課である。

自ら課題を設定して行う児童もいれば、課題を自ら見つけることが苦手な児童もいる。通常の学校であれば、保護者が学校の先生に電話連絡等を行い、確認することがある。さわらび学園では、分教の学級担任と密に連絡をとることができる。そのため、学習課題を共有することができる。もともと学習で躓き、「勉強」という言葉を聞くだけで不穏になる児童も珍しくないため、分教と学園の協力が必要であり、その架け橋を担う立場である。

三つ目は、漢字検定の実施である。年間三回実施され、自身の能力に合わせた級を受験している。漢検に対して児童の反応は「やっても意味ない」「漢字を覚えても将来使わない」など、後ろ向きな発言が多く聞こえ

てくる。これは、今まで学習で躓き、挑戦することの恐怖への防衛反応の言葉にも思える。そのため、級を得た際にはみんな嬉しそうな顔をする。また、級を取得した際には、朝会で園長から表彰される。自身が認められることで自己肯定感が高まる活動だと思っている。学習が苦手という感覚を児童は持っている。学習を好きにすることができれば最高の成果であるが、現在では、学習は日課の一つであり、苦手でも向き合うことを伝えている。一人ではできないのであれば職員と乗り越えていく。その結果、生活も変わってくるとうことを伝えている。

この活動を通し、学習係はあくまで学習機会の提供や学習プリントの準備にすぎないが、学習を通じて心身共にたくましい児童になるように寮職員と共有し、吟味している。

「お誕生日リクエストメニュー」

栄養士 關 芳枝

学園では、誕生日を迎える児童の皆さんに「お誕生日リクエストメニュー」として、事前にリクエストを聞いて提供しています。

今年度は、ある児童がフレンチトーストをリクエストしました。普段の食事ではあまり出すことがないので、調理員の皆さんと相談しながら作りました。

次の月、誕生日の児童にリクエストを聞くと、フレンチトーストという答えが返ってきました。前回食べたフレンチトーストを気に入ってくれたのかと、少しうれしくなりました。

ある児童は、某ファミリールェストランの人気のドリンクで、再現するために試行錯誤しました。少しでも自分の誕生日が特別なものになるよう、なるべくリクエストに応えたいと思います。

これからも、季節の料理や行事食、郷土料理などから、食事の楽しみ、大切さを伝えていきたいと思っています。次は、何のリクエストがくるのか、リクエストを聞くのが、楽しみです。ドキドキする瞬間です。

【今後の行事予定】

○三月十七日(日)

青葉寮社会見学

○三月十八日(月)

広瀬寮社会見学

○三月二十二日(金)

すみれ寮社会見学

○三月二十七日(水)

学園・分教室合同離任式

【編集後記】

春は出会いと別れの季節です。特に中学三年生は公立高校の受験、卒業式や離任式等を通して、分教室・学園の先生方や後輩達との別れを実感していくのではないかと思います。また、春から新たな場所で生活をすることになりますが、学園での様々な経験を活かしながら、新天地で頑張っしてほしいと心から願っています。学園に残る中二以下の生徒は、先輩達の良いところを見習いながら、今後の生活を頑張っしてほしいと思います。

